

⚡ 停電時の対応と注意点

- 自立運転（発電継続）機能の有無を事前に確認
- 2015 年以降のモデルには「停電時発電継続機能（つづけて発電）」が標準搭載されており、現在発電中であれば停電後も継続して電気とお湯を供給可能です。
- 停止状態であっても「つなげて起動」機能を使えば、外部電源（蓄電池・発電機・車のバッテリー等）からプラグを差し替えることで発電を再開できます。

• 専用コンセントからの給電

停電時の電力は「停電時専用コンセント」からのみ供給されます。普段は使用できず、居場所や接続可能な家電を事前確認が重要です。

使用電力量の上限に留意

最大 500W（機種によっては 700W）程度が目安となり、電力の大きい家電（ドライヤー、電子レンジ、食洗機など）は使用できません。

例：LED 照明（10～40W）、テレビ（70～90W）、ノート PC（50～60W）、携帯充電、扇風機（30～60W）など、消費電力 500W 以内に収める必要があります。

• 起動電力による停止を防ぐ

冷蔵庫など電力消費が大きい機器は起動時に電力制限を超える可能性があり、その場合は一旦停止します。停止後は、リモコン指示に従い、一部家電をコンセントから外して再起動します。

• 停電予測を活用した待機発電

気象情報や手動切替により、停電前から待機運転する「停電そなえ発電」機能を利用して継続的な発電が可能です。

• 停電中のお湯使用で発電継続

発電ユニットはお湯が使用されないと停止する場合があるため、浴槽にお湯を貯めるなどして常に一定量を消費することで発電を維持できます。

• 復旧後は自動で通常運転へ

停電復旧後、エネファームは自動的に通常運転モードに戻ります。

🚰 断水時の利用について

• 貯湯タンク内の水／お湯の活用

断水時でも貯湯タンク内のお湯や水（最大約 130L）が雑用水として利用可能です。ただし飲用目的ではなく手洗いやトイレ洗浄などに限定されます。

- 断水後の濁水対応

水道復旧後は濁りが出ることもあるため、お風呂等で十分に流す必要があります。

- 🔥 ガス停止時の注意点

- 都市ガス停止でも使える？

- ・都市ガスがマイコン遮断などにより停止しても、2021年以降のモデルでは電気ヒーターでお湯を沸かす「ヒーター給湯機能」により、貯湯タンクへ給湯可能です。
- ・ただしヒーター給湯は停電や断水時には利用できません。

- 遮断後の復帰

地震などでガスメーターが遮断された場合、安全確認後に自力で復帰操作が可能です。

- ✳️ 事前準備と運用対策

- 機種や機能の確認

リモコン画面で「停電設定」や「停電機能」があるかチェックし、自分の機種が対応しているか確認しましょう。

- 非常用コンセントの位置把握

停電時専用コンセントの場所を取扱説明書・業者・ガス会社などから確認し、家具に隠れないよう整理しておくで安心です。

- タンク内のお湯排出準備

停電時にタンクが満タンだと発電開始できないため、事前に浴槽へお湯を移すか、そのための設定（自動排出設定）の準備を行っておきましょう。

- 外部電源の準備

発電停止状態で停電が起きた際の備えとして、蓄電池・発電機・車バッテリー等、プラグ接続可能な外部電源を準備しておくで安心です。

- 消費電力のシミュレーション

リモコン表示を見ながら、非常時に使いたい家電の消費電力を把握し、500W前後に収められるよう日頃から計画しておくで実際に役立ちます。

以上が、エネファームを緊急・災害時に安全かつ有効に活用するためのポイントです。特に停電・断水・ガス停止の3つの状態に応じた機能と運用方法を理解し、事前準備をしておくことで、災害時に落ち着いて対応できるよう備えましょう。